

日本製粉(株)、第2四半期累計期間の連結業績および通期連結業績予想

日本製粉(株)(社長 近藤 雅之)の平成29年3月期第2四半期累計期間の連結業績は、売上高1,564億円(前年同期比100.8%)、営業利益54億円(同107.2%)、経常利益60億円(同101.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益41億円(同103.4%)の増収増益となりました。

< 連結業績の概要 >

(%表示は対前年同期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成29年3月期第2四半期	156,404	100.8	5,401	107.2	6,069	101.9	4,151	103.4
平成28年3月期第2四半期	155,122	105.1	5,036	134.2	5,957	140.3	4,015	128.0

< 連結業績のポイント >

- 売上高は、価格改定等の影響により製粉事業は微減となるも食品事業・その他事業の伸張により増収
- 利益面では、継続的なコスト削減効果と販売の拡大により、製粉・食品・その他事業がいずれも増益

< 連結業績の概況 ~ グループ全体の事業基盤の強化を推進 >

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀の財政政策や金融緩和策により、引き続き緩やかな回復基調を維持しました。しかしながら、中国をはじめとするアジア新興国等の景気減速や英国のEU離脱問題などの国際的リスクのほか、円高や株安といった状況が続いたことにより、国内景気の本格的な回復には至っていない状況となっております。

食品業界においては、国内景気動向の影響を受け、外食・中食市場を中心に消費者の節約志向が強まってきました。

当社グループは、このような変化の激しい事業環境に対し、柔軟かつスピーディに対処するため、コスト削減と販売の拡大を軸に、従来の基本施策を踏襲した事業基盤強化に取り組んでおります。ローコストオペレーション戦略による企業競争力の強化、成長分野での事業拡大、海外事業の拡充、CSR活動の充実などの取り組みを着実に実行することにより、今後も持続的成長を目指してまいります。

本年4月には、当社グループのニップンドーナツホールディングス(株)がドーナツショップ等を展開する大和フーズ(株)の全株式を取得したことにより、大和フーズ(株)が当社の連結子会社となりました。

9月には、取得金額9億2千2百万円、取得総数122万3千株の自己株式を取得しております。10月1日には、当社普通株式2株を1株に併合し、単元株式数を1,000株から100株に変更しております。また、11月1日には当社グループの連結子会社である東福製粉(株)が、株式交換により当社の完全子会社となりました。これにより、両社の企業価値を継続的に向上させ、さらなる連携強化により事業シナジーを一層高めてまいります。

なお、8月に千代田区麹町に本社ビルを新築し、移転いたしました。これを機にさらなる成長を目指してまいります。

< 連結業績予想 >

(%表示は対前期比率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成29年3月期 通 期	320,000	102.7	11,100	100.1	12,500	98.7	8,100	98.5

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、本年5月13日に公表いたしました予想数値から変更はありません。配当金につきましては、前期末の記念配当2円を普通配当に織り込み、中間配当7円、期末配当は10月1日の株式併合により14円を予定しております。なお、株式併合後に換算した年間配当金合計は1株当たり28円となります。

以上